

第28回交流審査会 議事要旨

1 日時 令和2年2月25日(火) 10時30分～11時30分

2 場所 人事院第一特別会議室

3 出席委員 (50音順、敬称略)

伊岐典子、伊藤雅之、菊地敦子、西村美香、山本隆司

4 議事

(1) 委員紹介

(2) 人材局長挨拶

(3) 会長選任

委員の互選により、西村委員が会長に選任された。

(4) 会長代理、運用審査部会委員及び部会長の指名

西村会長の指名により、会長代理に山本委員、運用審査部会委員に伊藤委員、市川委員、菊地委員、西村会長、同部会長に西村会長が選任された。

(5) 「令和元年官民人事交流に関する年次報告」(案)等について

(6) 官民人事交流推進のための意見交換

(主な意見)

- 官民交流の実施に当たり、交流を実施する民間企業の裾野を広げる努力が必要である。
- 民間企業側に官民交流に対してどのようなニーズがあるのかなどを把握する必要があるのではないか。
- 交流派遣の新規派遣者数が増えたことはいいこと。引き続き増えてほしいが、官の仕事が増えている一方で人が足りてない事情も認識している。デジタル化を進めて、仕事の効率化を図り、官における人手不足を解消し、交流派遣に出せる人材を確保すればよいのではないか。
- 交流派遣について、環境の変化が激しい業界・分野により多くの職員を派遣するなどのメリハリをつけるべきではないか。
- 今後、定年延長が見込まれているが、そうなったときに現在の50歳以上の交流派遣を原則認めないという取扱いをどうするか検討する必要があるのではないか。定年が延長されることにより、当然、人員構成などのピラミッドが変わることとなるのだから、それを見据えて、どのように取り扱うかということについて、今から検討を進めておく必要があるのではないか。
- 今後、定年が延長されていくことが見込まれている中、人材育成というものをどのように捉えていくべきなのか検討することが必要。職

員が自分自身でキャリア選択をしていく時代になってきており、必ずしも全員が定年まで勤めることを前提とするのではなく、交流派遣により民間企業を経験した職員が、公務で一定の貢献をした後、民間企業へ転身するようなことがあってもいいのではないか。

- 交流採用では50歳以上の交流も行われているようであるが、高齢層の官民交流の目的は、官民交流の主体である30歳代、40歳代の交流とは目的が違っている可能性があるのではないか。いわゆる天下りとの線引きや国民への説明等難しい問題はあるが、今後、50歳代の交流派遣をどうしていくのか考えていくときには、多様な目的を認めていくことが必要かもしれない。

以 上